

図書便り(6月号)

令和6年(2024年)6月24日(月)発行

文責 山瀬

～期末考査がはじまります～

6月9日(日)に行われた熊本県定時制通信制体育大会への参加、お疲れ様でした。練習の成果をだしている人や、試合に出場している人のために一生懸命声を出し応援をしている人、たくさんの輝いている姿がありました。みなさんの一生懸命な姿を見ると、とても嬉しくなります。今回の経験から、得たものはたくさんあると思います。それを今後につなげていってほしいです。

さて6月26日(水)からは、一学期期末考査が始まります。一学期も終わりに近づいています。7月には様々な行事がありますし、期末考査が終われば、あっという間に夏休みです。蒸し暑い日々が続きそうですが、体調管理に気をつけて頑張っていきましょう。

🌸 図書案内 🌸

今月の図書紹介は言葉に関する本です。気になる本がありましたら、定時制図書室まで。

『「言いたいこと」から引ける敬語辞典』

西谷 裕子(著)



「正しい言葉遣いをしたい。」そんな思いを抱いてはいませんか?こんなとき、敬語でどう表現するのかわからない。そんなときに、この本は役に立ちます。敬語の使い方や間違った敬語の例を提示しながらわかりやすく敬語について教えてくれる本です。美しい日本語を使いたい人必見です。

『きつおんガール』

うまく話せないけど、仕事しています。』

小乃 おの(著)

菊池 良和(解説)



吃音とは話し出すときに、言葉が出にくいことです。吃音と向き合いながら過ごした学生生活を振り返りながら、どんな思いだったのか、どんなことをサポートしてほしいのかを漫画でわかりやすく教えてくれます。

『ふわふわとちくちく ことばえらびのほん』

齋藤 孝(監修)

川原瑞丸(絵)



「相手の気持ちを考えて、言葉選びをしてみよう」というコンセプトに相手を笑顔にする「ふわふわことば」と相手の心を痛くする「ちくちくことば」について描かれています。「ちくちくことば」ではなく「ふわふわことば」が選べるように、言葉選びについて楽しく学べる絵本です。

『文豪たちが書いた怪談』

彩図社文芸部(編)



夢野久作、森鴎外、太宰治、そして小泉八雲。名だたる12名の文豪たちによる13編の怪談が描かれた短編集です。作家によって表現の仕方は異なり、どのようにして恐怖を表現していくのか、ページをめくる手が止まりません。ゾワゾワする珠玉の短編集を読んでみてはいかがでしょうか。